

酒々井町郷土研究会々報

第78号

平成7年10月1日発行
酒々井町郷土研究会
広報部

日本の神々の系図(四)

会田秀雄

前号では、あまり耳なれない神々が続きましたが、いよいよ日本

の国を産んだ神の登場です。

⑫伊邪那岐神 ⑬伊邪那美神

前号の⑥から⑫までを神世七代

という。イザナギ・イザナミの

神は、神世七代最後の神で、最

初の夫婦神ともいわれている。

神名のイザナは、誘うを意味し、

ギ(男性)・ミ(女性)を加えて

性を區別している。この二柱の神は

実に多くの神々を産み、更に皇室

の祖先神である天照大神の親と

されながら皇祖神とはみなされず、

比較的冷遇されているのは注目

すべきである。

⑬蛭子神(イザナギ・イザナ

ミの最初の子であるが、手足が

萎えた子であったため舟船に乗

せて流し捨てられたとある)

次に産まれたのは日本列島

の島々です。

⑭淡道之穂之狭別島(淡路島

を人格化した名称)

⑮伊予之三名島(四国のこと、

山脈によって三列に別れていて、一

つにして顔四つ有り)とある)

⑯隠岐之三子島(隠岐の島の

こと。天之忍許呂別ともいう)

⑰築紫島(九州のこと。この

島も「身一つにして顔四つ有り」

とある)

⑱伊伎島(壹岐の島のこと。天

比登都柱ともいう)

⑲津島(対島のこと。天之狭

手依比売ともいう)。⑳佐渡島。

㉑大倭豊秋津島(豊かに穀物

の給る大和の島のこと。本州を

意味する)

以上を大八島国という。次に小

さな島々六島が生まれますが代

表して

㉒吉備児島(岡山県の児島半島

のこと。吉備は備前、備中、備

後、美作の総称で、黍の意が含ま

れている)

国々を生み大事がなつたのを
縁えて、
⑳大率忍男神が生まれ
ます。

次に家屋の神々が生まれます。

㉑石土毘古神(壁を造る石や

土の神)。㉒石巢比売神(石砂

の神)。㉓大戸日別神(入口の

門の神)。㉔天之吹男神(屋根

を葺く神)。㉕大屋毘古

神(屋根の神)。㉖風木津別之

忍男神(風害を防ぐ神)

次に海の三神が生まれます。

㉗大綿津見神(綿は海、津見

は町司の古語で、大海を司る神)

㉘速秋津日子神(港の神)

㉙速秋津日売神。

㉚志那都比古神(風の神。志

那息が長いの意味で、風は風

の神の息から起るものと考えて

いた)

㉛久久能智神(木の神)

㉜大山津見神(山の神)

㉝鹿屋野比売神(野の神)

㉞天之狭土神(けわしい坂道

を司る神)外七神。

㉟鳥之石楠船神(楠で造った

丈夫な船の意。天鳥船ともいう)

㊱大宜都比売神。

㊲火之夜芸速男神(火の神。

又の名を火之迦具土神)

この神を産んだイザナミ神は

身を焼かれ苦しみ、その苦しき
の中から
㊳金山毘古神(嘔吐

から生れた神)など六神が生ま

れます。イザナミ神が亡くなつ

たのでイザナギ神は悲しみ、生ま

れたのが、㊴泣沢女神。イザナ

ミ神を焼き殺した火之夜芸速男神

の首を斬った時に㊵建御雷之男

神(雷神)など八神が生まれます。

イザナギ神はイザナミ神を訪ねて

黄泉国まで行きますが、イザナミ

神の蛆のにかつた姿を見て逃げか

えります。その後を追うイザナミ

神との間の戦いでも多くの神々が生

まれます。地上に返った伊邪那岐

神が投げ棄てた物から生まれた神々

が、㊶衝立船戸神(投げ棄てた杖

から生まれた神)など十二神。

楔が左の日を洗った時生まれた

神が、㊷天照大神(天に在って照り

給う神。皇室の祖先神)

右の日を洗った時に生まれた神は

㊸月読命(月神)。鼻を洗った時

に生まれた神は㊹建速須佐之男命

(勇猛迅速に荒れずさぶ男神、嵐

神)。外一神と自然界のものから

人工的なものに至るまでの多くの神

々が誕生しました。この後、皇孫

降臨の時まで神々は続くのですが、

祇面の都合で筆を置くことと致し

ます(了)。

酒々井と佐倉七牧

郷土史講座を聴いてー

高木正浩

八月二十日は、佐倉で最高気温三九一度を記録した暑い日でしたが、熱心な来聴者を前にして中央博物館の樋口先生は史料をもとにして克明にとでもわかりやすく話を進めて下さった。

房総にひろがる台地は、古来、馬の放牧に適していた。江戸時代の房総の牧は、小金・佐倉・嶺岡の三か所に分布し、徳川幕府のための軍馬を生産することが主な目的であった。八代將軍吉宗は享保のころ二度鹿狩を行き、小金・佐倉牧の積極的経営に乗りだしている。佐倉七牧は千葉・印旛・山武・香取の四郡にまたがり、野付村々は二一〇か村に及び、放牧されていた馬は約三〇〇〇頭といわれている。これらの牧は、牧主によって馬や牧場が直接管理され、佐倉牧には約一三名いたといわれた。牧士は武士で、身分は低いが名字帯刀・乗馬も許され、野犬や狼から守るために鉄砲を所持して

いた。しごとは牧の維持・管理、野馬の保護、増殖、野馬の食料や水の確保、年一回の野馬捕りの指揮などが重要なものだった。

野馬捕りは、野馬がふえ過ぎない様にするための年中行事で、捕獲するのは三才の牡馬である。御用馬として江戸に送られる良馬と、荷駄用や農耕用の馬としてセリ売りにかけられるものに分けられた。『酒々井町史』の史料集に見られる「野馬御用日記」は、佐倉四牧方牧士組頭を代々務めに酒々井町の島田長右衛門家から発見されたもので、当時の牧の人びとの生活がよくわかる貴重なものである。

午後ひととき、郷土をより深く知りたい私たちにとって、まことに充実した心楽しい時間を過ごさせていただきました。

タコノアシと

ミクリの近況

亀井香久乃

皆さん、タコノアシという植物をご存知でしょうか。以前は日当りの良い湿地には時折見かけましたが、最近では減少に見られませんが、じつはその植物が下岩橋地区に群生しています。数年前、散歩の途中見つけました。その後、毎年増え続け、昨年は目測で約三〇〇坪程の休耕地は、タコ

ノアシ「ベンケイ草科」でいっぱいになり、十月末には全草が紅に



休みのようにつづきます。お仲間にもお知らせください。

染まり見事な草紅葉でした。草丈約一メートル弱で、上部の針上した花柄には八月の真夏に地味な花が咲き、結実の形は蜻蛉の吸盤に似ています。秋には赤く色づき、上向きに開いた実枝は茹で蜻蛉を逆さに見るようです。その姿から、タコノアシという和名を名付けたものと思われます。春から数回、其処へ見廻りに行ってみると、今年は大形のガマ類が増え、その下で、タコノアシも負けずと育っていたのでほっとしました。近隣の堀割には、珍しい「ミミクリ」が自生し、その花を六月末に見に行くと、赤茶けた汚水の中で萎枯れた葉茎にも拘わらず三個の花を見ました。近隣から流入する生活廃水は、ミクリにとって死活の感があります。特別な植物が、人家近くで存続するのは大変のようです。

〔※針上…酒の器の上部〕

野草部よりおしらせ

春の観察会につづいて、山の紅葉一般と美しくなるこの時季に、下岩橋の田圃に真赤に染まる「タコノアシ」を観ることにしました。その後、周辺を少し歩いてみるつもりです。行事業内をごらんの上、ご参加下さい。お待ちしております。



(タコノアシ)

原宿恵比寿ガーデン方面

タダ谷うめ

紫陽花が、鮮かな色彩で我が世の春と咲き競う梅雨の景中、

酒々井駅八時十五分集合と、言ふ事なので、急いで駅へ行くともう大勢来ておられた。

先ず、東郷神社へお詣りして、いろいろな写真が飾られ、日本海海戦の時の様子なども聞き感動しました。

は、本当にすばらしかったです。

さて恵比寿ですが、私は、今までの東京はあまりよく知りませんので、とにかく超高層ビルばかりで本当に吃驚しました。

申し訳けないのですが、唯長い列に並んで、昼食を食べに行つた事だけしか記憶にないのです。

珍客到来

暑いく夏でした。その暑さの中の八月十九日、ハトの夫婦がやってきました。

我が家の庭のみみじの木に巣作りを始めました。御主人バトが枯枝を運び、奥さんバトが組み立てて、ささやかな巣が出来ると二個の卵を産みました。

見学案内



(1)

県内見学会

A班 10/24 (X) B班 10/25 (X)

九十九里・東金方面

ひとめでわかる県内日帰り見学会で次の五か所を廻ります。

武家屋敷門

文久二年、当時老中本多美濃守の江戸屋敷敷門であったのを東金に移築したもので、東大の赤門、国立博物館内にある黒門と、東金の武家屋敷門が日本三門といわれ国の重要文化財になっている。

八坂神社

伏見天皇の御代、正応二年に、久我台の城主であった北條成高守平久時の居城鬼門鎮座のため、京都八坂神社の祭神である素戔嗚尊の分身を請い、現地に奉祀されたといわれる。

本松寺

この寺は日蓮宗で、見学すべきは鐘楼が有名で、享保二年十二月に建立され、江戸中期の地方棟梁のすぐれた技術がしのばれる。

同夢山願成就寺

この寺はもと久我台に居館した北條氏によって鎌倉時代に創建された法華宗の寺院である。枝垂桜が有名であるが、この寺域内と思われるところに三介仙碑といわれている三基の五輪塔がある。

名勝探訪

12/5 (火) 12/8 (金)

栗鴨・池袋方面

気忙しい時期ですが、今日一日はのんびりと、六義園、栗鴨のお地蔵様、サンシャインを見学しましょう。六義園は柳沢吉保の別邸です。

郷土研行案内

平成7年10月~12月

	10月	11月	12月
史談会	14日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(17) 講師 高橋健一先生	休 み	2日(土)午後1時30分 中央公民館 「史料に読む酒々井の歴史のひとこま」(8) 講師 高橋健一先生
名勝探訪	12月5日(火) 雨天代替 8日(金) 京成酒々井駅 8:15 集合 菓鴨・池袋方面 コース 京成酒々井駅 → 駒込 → 大義園 → 駒込 → 菓鴨 → 高岩寺 (とげぬき地蔵) → 菓鴨 → 池袋 → サンシャイン → 池袋 → 酒々井 (自由参加) 費用は自己負担 (都合でコース変更もありませんのでご了承ください)		
野草の会	10月27日(金) 雨天代替 30日(月) 集合場所 京成宗吾参道駅(聖堂口) 9時30分 持ち物 昼食 及び 飲み物 野草観察の会(下岩橋地区) 「クゴアジ」の観察をいたします。		
県内見学会	10月24日(火) A班 25日(水) B班 東金方面 申込受付日 10月12日(木) 9:00 受付場所 中央公民館 ロビー 会費 2,500円 (材料費を含む) 昼食は自弁です。 キャンセル 実施日3日前まで 会田秀雄宅まで (TEL)	各定員 33名 出発時間 中央公民館 8:30 コース 公民館 → 武家屋敷門 → 菅原工芸 (昼食自弁) → 八坂神社 → 本松寺 → 原成辻寺 → 菅原工芸 (作品受取) → 公民館	
県外見学会	11月9日(木) 甲府方面 申込受付日 10月12日(木) 9:00 受付場所 中央公民館 ロビー 会費 7,000円 キャンセル 実施日5日前まで 会田秀雄宅まで (TEL)	コース 中央公民館 (6:00) → 石川PA → 甲府 → 昇仙峡(昼食) → 武田神社(宝物殿) → 恵林寺 (庭園) → 勝沼 → 石川PA → レインブリッジ → 酒々井 (9:30)	

雨天決行

見学案内

県外見学会
甲府方面
11/9 (木)

有史以来の新記録と言う猛暑も過ぎた甲府で晩秋の一日を楽しく過ごしましょう。

昇仙峡は金峰山から発した渓谷で、天神森から仙娥滝迄約五キロが天下の奇蹟です。断崖を縫って流れる溪谷に登龍岩・寛円峰・天狗岩・屏風岩等が車窓から見られます。

昼食を含めて約二時間。ロープウェイに乗るもよし、資料館の見学、少し歩いて仙娥滝の見物等御自由にお過ごし下さい。

武田神社は、戦国時代の武将武田晴信を祀った神社(信玄は出家してからの法号)です。晴信は「人は城、人は石垣、人は壕、情は味方、仇は敵なり」として領民に善政をつくしました。宝物館には、風林火山の旗印、武器など多数展示されています。

恵林寺の山門をくぐると杉並木の参道が続き、第二山門(これだけが焼け残り重文)の四脚門の右の門柱に安禪不必須山水(静かに坐禪を組むには必ずしも山水の静かな所を必要

あどがき

日	内容	出席者
7/21	史談会 高橋健一先生(17) 史料に読む酒々井の歴史のひとこま	20
7/22	郷土研講座 酒々井の歴史と文化	84
7/23	史談会 高橋健一先生(17) 史料に読む酒々井の歴史のひとこま	20
7/24	郷土研講座 酒々井の歴史と文化	28
7/25	名勝探訪 酒々井の歴史と文化	35
7/26	会報発送	25

梅雨が明けた途端の連日の猛暑。ついに八月二十日には三九一度と全国でその日の最高気温を記録してしまいました。一躍有名になってしまった佐倉地方の気温・雨量の観測地点は何処にあるか御存知でしょうか。それは鹿島橋付近に設置されたアメダスの観測により測定されているそうです。ちなみに梅雨が明けた七月二十三日から八月三十一日までの四日間の間に気温三六度以上(体温以上)の日は、なんと半数近い一八日もありました。本首に厳しい夏でした。

この暑さを無事耐え抜いてこられた郷土研の皆様、お待ちかねの秋の行事が盛り沢山に計画されています。遊びに、学びに、元気なお顔を見せて下さい。